

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束を行う場合の検討の記録が整備されていない。入居者が不穏時、玄関が施錠されている時がある。	職員ひとりひとりが身体拘束への理解を深める。 身体拘束を実施する際や実施後の検討の記録を整備する。 玄関の施錠解除に努める。	身体拘束や認知症に関する勉強会の実施。 入居者が穏やかに過ごせる環境作りを行う。 身体拘束(玄関施錠を含む)を実施した際は定期的に解除に向けた検討を行い、その記録を残す。	1ヶ月
2	12	やりがいや向上心を持って働ける環境が整っていないところがある。	職員のスキルアップを図り、やりがいや向上心につなげる。	定期的に社内の勉強会を開催するとともに、外部研修を利用して、スタッフのスキルアップを図る。職員に学びたいテーマを出してもらい、興味を持って学習できる環境を作る。	6ヶ月
3	38	忙しい時に業務優先になる。	利用者目線で考え、行動できるようになる。	職員が利用者対応を第一に考えるよう意識を変える。 業務が効率よく遂行できるよう、工夫・改善すべき点を職員で検討し、実行する。	1ヶ月
4	52	共用空間で職員の声が大きく、騒がしい時がある	職員の騒がしい言動をなくす。	大きな声を出さず、落ち着いた行動ができるように心がける。私語は慎む。 話をするときには側に言って声をかける。 声が大きいつきはお互いに注意し合う。 足音にも注意する。	1ヶ月
5	49	日常的な外出が病院に限られていて、散歩やドライブ、買い物等の外出が少ない。	利用者様の希望や地域の社会資源を利用しながら外出支援を行う。	天気がよい日は積極的に散歩に出かけたり、近所をミニドライブする。 新聞等でイベントや観光地の情報を収集し、積極的に参加する。	1ヶ月
6	33	終末期の過ごし方の確認ができていない。	利用者や家族と意思確認を行い、その意向を把握する。 職員は終末期ケアについての知識を習得する。	意思疎通が取れる利用者とは話し合いを行い、意向を把握する。また、家族へは定期的に終末期に対する意向のアンケートを行う。	2ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。